

令和 2 年 6 月 8 日現在

機関番号：24302

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K18009

研究課題名(和文) グリム兄弟の学際的研究から『ボルテ/ポリーフカ』へ 改訂作業のテキスト分析

研究課題名(英文) From the Interdisciplinary Study by the Brothers Grimm to Johannes Bolte's and Jiri Polivka's Annotations: Some Analysis of Their Text Revisions

研究代表者

横道 誠 (Yokomichi, Makoto)

京都府立大学・文学部・准教授

研究者番号：60516144

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,900,000円

研究成果の概要(和文)：グリム兄弟による昔話注釈に含まれた、グリム兄弟の幅広い関心(現在では伝承文学研究、比較言語学、比較宗教学、民俗学、文化人類学、法制史に属する内容)を整理した。現在の伝承の国際比較研究を参照しつつ、ヨハネス・ボルテとイジー・ポリーフカによるグリム兄弟の注釈の改訂作業のディティールを明らかにした。グリム兄弟による「釘樽の刑」への見解、「蛇の3枚の葉」などに注目し、兄弟間の見解の違いや兄弟とボルテ/ポリーフカの見解の違いを明らかにした。グリム兄弟の仕事の全体像を総括し、彼らが昔話を神話論として遂行したことについて、多角的に検証した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

『グリム童話』の編纂者であるグリム兄弟が人文学の学者であったこと、『グリム童話』も彼らの学者としての仕事の一環として生まれたという事実は(国内外を問わず)一般読者にはほぼ知られていない。のみならず、ドイツ文学者や伝承文学研究者の間でも、グリム兄弟の仕事の全体像を理解した上で「グリム研究」がおこなわれることは稀だ。研究代表者は「学者としてのグリム兄弟」の研究活動の学際性を明らかにすることで、ドイツ文学研究や伝承文学研究はもちろん、広く人文学全体、さらには一般読者の間での「グリム兄弟」や『グリム童話』への理解を、これまでよりも広く深いものへと更新することを図った。

研究成果の概要(英文)：Brothers Grimm's annotations on their fairy tales were investigated and their broad interests (Folk Narrative Research, Comparative Linguistics, Comparative Religion, Ethnology, Cultural Anthropology, Legal History) sorted out. With reference to the current international Folk Narrative Research, the details of the revisions by Johannes Bolte and Jiri Polivka of the Brothers Grimm's annotations were revealed. Focusing on the views of the Brothers Grimm on the punishment of "Nageltonne" and the "Three Snake-Leaves", the differences of the opinion between the both brothers and between the brothers and Bolte/Polivka were analyzed. The main works of the Brothers Grimm were summarized, and it was criticized that their study, in which fairy tales were regarded as derivatives of the old myth, resulted in the significant cause of the trouble in the history of the research.

研究分野：ヨーロッパ文学

キーワード：独文学 伝承文学 学問史 比較文学 思想史 世界文学

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

研究代表者は、2011年から『子どもと家庭の昔話集』(いわゆる『グリム童話』。以下、『昔話集』と表記)によって世界的に知られるグリム兄弟(ヤコブ・グリムとヴィルヘルム・グリム)を主たる研究対象としてきた。

19世紀に編纂された『昔話集』は21世紀のいまも、国内外を問わず(各種メディア展開をもつじて)高い知名度と影響力を有する。しかし、『昔話集』の編纂者グリム兄弟が人文学の学者だったこと、『昔話集』も彼らの学者としての仕事の一環として生まれたという事実は(国内外を問わず)一般読者にはほぼ知られていない。

問題は、専門家のあいだでもしばしば類似した状況が見受けられることだ。ドイツ文学者や伝承文学研究者が、グリム兄弟の仕事の全体像を理解した上で「グリム研究」をおこなうことは稀なのだ。実際には、グリム兄弟の時代(19世紀)には人文諸学が未分化であり、彼らは自分たちが収集した昔話を分野横断的に考察した。それらの分野は、現在では伝承文学研究、比較言語学、比較宗教学、民俗学、文化人類学、法制史に属している。研究代表者は「学者としてのグリム兄弟」の研究活動の学際性を明らかにすることで、ドイツ文学研究や伝承文学研究はもちろん、広く人文学全体、さらには一般読者の間での「グリム兄弟」や『昔話集』への理解を、これまでよりも広く深いものへと更新しようと図った。

2. 研究の目的

グリム兄弟の伝承文学研究に関する分野での最大の後継者ヨハネス・ボルテ(ドイツ人)が、イジー・ポリーフカ(チェコ人)と共同執筆した書物がある。この書物は、グリム兄弟が共著として刊行した『昔話注釈』第3版をボルテらが徹底的に改訂したもので、通常は『ボルテ/ポリーフカ』(Bolte/Polívka、原文ドイツ語)と呼ばれるが、その成立の経緯から、これを『昔話注釈』第4版と見なすことができる。

ボルテらはこの書物で、グリム兄弟の共著やそれぞれの単著、さらにグリム兄弟以外の手になる膨大な新資料を用いて(そして、それぞれの妥当性を検証しながら)改訂作業をおこなった。その際、彼らは必然的にグリム兄弟の関心事だった幅広い学問分野を批判的に統合しながら記述を進めた。本研究は、グリム兄弟の『昔話注釈』とボルテらの『ボルテ/ポリーフカ』を突きあわせ、テクストの異同を洗いだし、考証することによって、ふたつの時代の間起こった人文諸学の発展に光を当てることに目的を置いた。

3. 研究の方法

『ボルテ/ポリーフカ』が刊行されていた時代(1913~1932年)から現在までに、100年前後が経過しているため、この書物の記述は多くの点で現在の研究水準を満たしていない。

現在では、さらなる大著の『昔話百科事典』(ドイツ語、1977~2015年、全14巻)や、より普及度の高い『民間伝承国際カタログ』(英語、最新版は2004年刊行、全3巻)が刊行されている。これらは『ボルテ/ポリーフカ』を克服する側面を持っているが、『ボルテ/ポリーフカ』の完成度の高さゆえに、克服は全面的なものではない。つまり、『ボルテ/ポリーフカ』は「慎重に使用されるべき現役のレファレンスツール」という位置づけを有する。『ボルテ/ポリーフカ』と、その後の諸研究の共通点や相違点を知ることによって、『ボルテ/ポリーフカ』の研究史上の位置づけと特質を見極めることができる。

『ボルテ/ポリーフカ』では、改訂の際に、グリム兄弟の書物やグリム兄弟以外に由来する当時の新資料が、批判的に参照されている。『昔話注釈』は、グリム兄弟の幅広い関心(現在では伝承文学研究、比較言語学、比較宗教学、民俗学、文化人類学、法制史に属する内容)を含んでいたが、『ボルテ/ポリーフカ』もそれらの内容を横断的に考察している。

以上の状況を踏まえて、本研究計画では以下の研究テーマを設定することになった。

(1)「歴史的現実としての「釘樽の刑」と伝承での虚構性」の解明に取りくむ。『昔話集』には「釘樽の刑」がしばしば登場する。これは、釘を内側に向かって打ち付けた樽に罪人を封入して転がして処刑するというものだ。グリム兄弟は『昔話注釈』やほかの書物で、これを古代ゲルマン社会に実在した刑罰と見なしていたが、『ボルテ/ポリーフカ』はグリム兄弟以外の資料を参照し、これを伝承上の虚構と見なす立場を取っている。グリム兄弟の著作、『ボルテ/ポリーフカ』、そしてそれ以後の現在までに至るさまざまな資料を比較分析し、考証を加えることで、『ボルテ/ポリーフカ』の解説の成否を明らかにし、同時に、その論証を通じて「学問的深化」という歴史的背景への洞察をおこなう。

(2)「昔話「蛇の3枚の葉」の起源と流布に関する研究史」の問題に取りくむ。『昔話集』には「蛇の3枚の葉」という昔話が収録されている。グリム兄弟は『昔話注釈』で、この昔話をゲルマン神話、ギリシア神話、イスラムの伝説などに関連づけつつ、その起源や流布の過程については見解を保留している。『ボルテ/ポリーフカ』は、グリム兄弟の立場を大きく踏みこえて、この昔話がインドに起源を有し、それがドイツとイタリアに伝達したのち、欧州各地に広まったという具体的な見解を提示している。この見解の妥当性とその歴史的位置を、現在の研究状況を参照しながら、明らかにしていく。

(3)「昔話を神話に引きつけて解釈することの妥当性の再検証」に取りくむ。研究代表者は以前より、グリム兄弟が彼らの収集したドイツ語昔話の多くをゲルマン神話から派生したものと見なしていたことを重視し、その解釈の妥当性を現在の研究状況に照らして再検証してきた。

上述した研究計画 を踏まえて、研究計画 では、改めてグリム兄弟の解釈の妥当性を問題にし、その解釈に対する『ボルテ/ポリーフカ』の批判的態の実態とその理由を明らかにしていく。

4. 研究成果

(1) ミニ・シンポジウム「ヴェーバー=ケラーマンの研究世界 社会、民俗、ジェンダー」、京都・京都府立大学、2017年10月30日。コーディネーターおよび討論司会を担当。講演者は野口芳子氏。グリム兄弟の研究方法を批判したインゲボルク・ヴェーバー=ケラーマンについて考察し、討論する機会を設定することで、本研究計画のための予備知識を深めた。野口芳子氏はヴェーバー=ケラーマンのもとで博士論文を執筆した研究者。

(2) 「神話と学問史 グリム兄弟とボルテ/ポリーフカの昔話注釈」、『「神話」を近現代に問う』植朗子、南郷晃子、清川祥恵編、勉誠出版、2018年4月、31-42ページ。「研究の方法」に記した研究テーマ(1)と(2)に関する研究成果を公表した。

(3) 「宇宙の木と9つの世界 北欧神話」、『はじまりが見える世界の神話』植朗子編、阿部海太挿画、創元社、2018年4月、18-23ページ。グリム兄弟研究によって深めたゲルマン神話に関する知見を一般書で公表した。

(4) 「ヴィツェルの世界神話学とグリム兄弟」グリムと民間伝承研究会第69回例会、東京・早稲田大学、2018年5月27日。「研究の方法」に記した研究テーマ(3)に関する研究成果を日本語で公表した。

(5) "Comparative Mythology of the Brothers Grimm and Their Successors", 12th Annual International Conference on Comparative Mythology (IACM 2018), Sendai: Tohoku University, 1 Mai 2018. 「研究の方法」に記した研究テーマ(3)に関する研究成果を英語で公表した。

(6) パネル発表「グリム兄弟とその学問的後継者たち」、学際シンポジウム「現代に生きつづける神話」、京都・京都府立大学、2018年7月28日。パネル発表のほかにコーディネーター、討論司会も担当。招待講演は植朗子氏、庄子大亮氏。ほかのパネル発表者は南郷晃子氏、清川祥恵氏。「研究の方法」に記した研究テーマ(3)を、日本の神話研究・民間伝承研究の歴史や現在の海外の研究動向も関連させることで深め、シンポジウムの形で公開した。

(7) 「神話に魂を奪われて グリム兄弟とその後継者たちの民間伝承と民間信仰、研究報告書『神話研究』、横道誠、南郷晃子、清川祥恵、植朗子編、2018年9月、43-71ページ。上の(6)の内容を加筆修正を加えた上で公表した。

(8) ドイツ語講演「ヨーロッパの医療と口承文学 霊薬、魔法、奇跡、精霊、護符」、科研費：研究課題番号17K18009、京都・京都府立大学、2018年10月3日。コーディネーター、通訳、討論司会を担当。講演者はハンス=イェルク・ウター氏。民間伝承に関する国際比較研究の第一人者ハンス=イェルク・ウター氏を招待し、これまでの研究の一端を公表していただき、他方では講演会前後の研究代表者との対話によって、研究上の知見を深める機会を得た。

(9) 「神話と世界文学 グリム兄弟とその同時代の文脈」、第6回神話学研究会、仙台・東北大学、2019年3月16日。これまでの研究成果を招待講演で紹介した。

(10) 平成31年度(令和元年度)は休職していたが、以上の研究成果を総合する著作の執筆を進めたため、今後の刊行を目指してゆく。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 横道誠	4. 巻
2. 論文標題 神話に魂を奪われてーグリム兄弟とその後継者たちの民間伝承と民間信仰	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 神話世界	6. 最初と最後の頁 43-71
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 横道誠	4. 巻
2. 論文標題 （翻訳）ハンス=イェルク・ウタ 「ヨーロッパの医療と口承文芸 霊薬、魔法、奇跡、精霊、護符	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 神話世界	6. 最初と最後の頁 71-80
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 横道誠	4. 巻 -
2. 論文標題 神話と学問史 グリム兄弟とボルテ/ボリーフカのメルヒェン注釈	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 「神話」を近現代に問う	6. 最初と最後の頁 31-42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 1件/うち国際学会 1件）

1. 発表者名 横道誠
2. 発表標題 ヴィツェルの世界神話学とグリム兄弟
3. 学会等名 グリムと民間伝承研究会第69回例会（東京・早稲田大学）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 横道誠
2. 発表標題 グリム兄弟とその学問的後継者たち
3. 学会等名 学際シンポジウム「現代に生きつづける神話」(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 横道誠
2. 発表標題 神話と世界文学ーグリム兄弟とその同時代の文脈
3. 学会等名 第6回神話学研究会(仙台・東北大学)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Makoto Yokomichi
2. 発表標題 Comparative Mythology of the Brothers Grimm and Their Successors
3. 学会等名 12th Annual International Conference on Comparative Mythology (International Association for Comparative Mythology, IACM), (国際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 植朗子編、阿部海太挿画	4. 発行年 2018年
2. 出版社 創元社	5. 総ページ数 131
3. 書名 はじまりが見える世界の神話	

〔産業財産権〕

〔その他〕

横道誠の研究室

<https://sites.google.com/site/mkyokomichi/>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----